

平成25年度木更津市社会教育委員会議第4回定例会 議事録

日 時：平成26年3月24日（月）

午後2時～4時

会 場：市民総合福祉会館2階第1～2研修室

出席者 蘇我委員（議長）、石井委員（副議長）、野中委員（副議長）、平田委員、榛澤委員、大岩委員、鈴木委員、武田委員、青木委員、吉田委員、李委員、地曳委員、内田委員、石村委員（14名）

事務局 初谷教育長、本多教育部次長、石井生涯学習課長、佐々木副主幹、篠田副主幹、露寄主査

事務局 ただ今より、平成25年度木更津市社会教育委員会議第4回定例会を開催いたします。本会議は木更津市審議会等の会議の公開に関する条例施行により公開されております。本日の傍聴人はありません。また、本日の会議成立に関してですが、委員18名中、14人の出席であります。社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により委員の2分の1以上の出席がございますので、会議の成立を報告いたします。

それでは、最初に蘇我議長から挨拶をお願いいたします。

蘇我議長 皆さんこんにちは。本日はご多用の中ご出席くださり誠にありがとうございます。今回の会議が、2年任期の最初の1年の最後になります。教育委員会から諮問をいただきまして、小委員会で議論を重ねてまいりました。第3回社会教育委員会議で中間報告していただいたところ、委員の皆さんから多くのご意見を頂戴いたしました。再度小委員会で検討を行い、それらの意見を反映したものが本日の答申案となっておりますので、ご意見をいただければと思います。また、本日の資料も事前にお手元に届いていると思いますが、スムーズに議論ができるよう事務局の方で毎回議事録等をご準備いただき、感謝します。

さて、本日は大変よい天気で、春めいてまいりました。この季節になると子どもの頃、よく川などに行き遊んだことを思い出します。自然体験が大事だということは皆さんと意見が一致しておりますが、私たちが育ってきた時代と環境はまったく異なっております。次代を担う子どもたちが、そうした自然体験活動ができるようにするにはどうしたらよいか、議論を深めていきたいと思っております。どうぞ、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

事務局 続きまして、初谷教育長より挨拶を申し上げます。

初谷教育長 皆さんこんにちは。今日から子どもたちは春休みに入るわけですが、大人はそういうわけにはいきません。お忙しい中、会議にご出席いただきありがとうございます。昨日、市長選が終わったところですが、新しい市長にも木更津市の教育、社会教育、生涯学習について十分ご理解いただき、さらに木更津の教育が進んでいけるよう執行部も頑張っていきたいと考えております。

本日の議題の一つは、社会教育振興事業の教育振興事業補助金の交付について、例年どおり諮問させていただき、答申をいただきたいと思っております。もう一つは、蘇我議長さんからもお話がありましたように、少年自然の家キャンプの今後のあり方についての答申についてです。議長さんからは事務局に対してねぎらいの言葉があり恐縮したのですが、もっと大変なのは小委員の皆さんです。お仕事後の夜、5回にわたって本当に遅くまで審議を重ねてくださっています。最終的な答申のまとめについては、4月以降を計画しているとのことですので、本日は小委員会の論議を経て、社会教育委員会議全体で議論していただいて、来るべき答申に備えていただきたいと思います。

どうぞよろしく申し上げます。

事務局 ありがとうございます。それでは会議に入っていきたいと思います。なお、今後の進行につきましては、運営規則第 2 条第 4 項により蘇我議長にお願いいたします。それではよろしくお願いいたします。

蘇我議長 それでは会議次第に従いまして、会議を進めていきたいと思ひます。

まず、平成 26 年度教育振興事業補助金（社会教育振興事業）の交付についての諮問です。なお、PTA、文化協会、子ども会育成会等、この補助金を受けている団体からの選出委員もいらっしゃいます。以前は、公平性を確保する意味で退室をしていただいたこともあります。退室はせずに、賛否の意思表示やご意見についてはご遠慮いただくという方法をとらせていただきましたと思ひますが、いかがでしょうか。

意義なし の声

それでは、鈴木さん、武田さん、榛澤さん、大変申し訳ありませんが、そのようなことでよろしく申し上げます。それでは事務局から説明をお願いします。

事務局 社会教育関係団体等への補助金の交付について、社会教育法第 13 条に基づき社会教育委員会へ諮問させていただきたいと存じます。

教育長より諮問書を社会教育委員会議長にお渡しいたしますので、よろしく申し上げます。

教育長 木教生学第 340 号、平成 26 年 3 月 24 日、木更津市社会教育委員会議長様、平成 26 年度木更津市教育振興事業補助金（社会教育振興事業）の交付について（諮問）、このことについて、教育振興事業補助金として別紙のとおり交付することにつき、社会教育法第 13 条の規定により意見を求めます。木更津市教育委員会
以上です。

蘇我議長 ただ今諮問がありました平成 26 年 3 月 24 日付木教生学第 340 号の平成 26 年度社会教育関係団体等に対する補助金の交付について、審議いたします。

事前に委員各位に資料が届けられていると存じますが、事務局の補足説明があればお願いいたします。

補足説明—事務局

ありがとうございます。それでは質疑に移ります。ご意見ご質問がありましたらよろしく申し上げます。

地曳委員 各団体の成り立ちや歴史の違いもあると思ひますが、団体の活動費 100%を補助していくようにしていくのか、ある程度自主財源を持つのが前提で、不足分を補っていくものなのか、基本的な考え方をお聞かせいただきたい。

事務局 まず、社会教育関係団体とは、公の支配に属しない団体、社会教育を行う団体のことをいいます。広い意味では、公民館で活動しているサークル等も社会教育団体としてとらえることができます。「公の支配に属しない」ということは、団体活動をしていくのに自主財源を持っているということがあると思ひます。もう 1 点は、団体の構成員の問題です。例えば、青少年相談員の皆さんは、自主的な社会教育活動をしています。メンバーが県や市の委嘱であり、基本的に補助金で活動しているという意味で、社会教育関係団体としてはとらえていないということがあります。

高橋文化課長 文化協会については、団体活動の事業費の一部を補助するという考え方です。

地曳委員 各団体の歴史の違いもあると思ひますが、自主財源を比率で見ると、かなりの差があります。個人的には 10%ぐらいは自主財源があった方がよいのではないかと考えますが、基準みたいなものはあるのでしょうか。また、自主財源を増やしていくように

指導することはできないのでしょうか。

事務局 まず、自主財源の記入の仕方の問題もあります。例えば、市子連ですが、平成 24 年度は 18 単位子ども会で組織されており、純粋な会費が自主財源として挙げられていますが、歳入の内訳のうち「その他」は、ほとんどが各事業への参加者の参加負担金です。実際には、自主的な財源で事業を実施しているわけですから、一概に「自主財源」が少ないとは言えない面があります。なお、地曳委員が言われたように、基本的に、団体の自主財源の比率を高めるようにしていくべきだと考えます。

石村委員 補助金を出している団体は、どのように決まるのでしょうか。また、新たに補助金をもらいたいと思った場合はどうすればよいのでしょうか。

事務局 補助金の公募をしている自治体等もありますが、本市においては、「補助金等交付規則」及び「教育振興事業補助金交付要綱」に基づいて、社会教育関係団体等の申請によって交付しています。新しい団体については、申請に基づいて審査し、予算の範囲内で検討することになると思います。

蘇我議長 他にご意見はありませんでしょうか。それでは、平成 26 年度社会教育関係団体等への補助金の交付については、交付予定団体の事業に対し、予算の範囲内で交付することよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

挙手全員

蘇我議長 挙手全員です。本案は可決されました。それでは答申書（案）の作成を事務局にお願いします。作成終了まで暫時休憩いたします。

暫時休憩

蘇我議長 休憩を取消し会議に入ります。お手元に配付いたしました答申書（案）について、事務局から読み上げをお願いします。

読み上げ—事務局

蘇我議長 ただいま事務局から読み上げられた答申書（案）に賛成の方は挙手をお願いします。

挙手全員

蘇我議長 挙手全員です。つきましては本答申書によって教育長に答申することといたします。

蘇我議長 それでは、「平成 26 年度社会教育関係団体等に対する補助金の交付について」答申いたします。

平成 26 年 3 月 24 日、木更津市教育委員会 様、木更津市社会教育委員会、議長長、蘇我芳章、平成 26 年度木更津市教育振興事業補助金（社会教育振興事業）の交付について（答申）、平成 26 年 3 月 24 日付け木教生学第 340 号を持って貴教育委員会より意見を求められたこのことについて、下記のとおり答申いたします。記、本市社会教育の振興にとって効果的と認められるので、原案補助金を交付することが適当である。以上です。

蘇我議長 それでは、続きまして「青少年の自然体験活動の推進方策と少年自然の家キャンプ場の今後のあり方について」の答申案の検討について協議に入りたいと思います。最初に、答申案検討小委員会の榛澤委員長から報告をお願いします。

榛澤委員長 私の方から、「中間報告」で出された主な意見について、第 5 回答申案検討小委員会で検討した結果について報告させていただきます。

「(1) キャンプ場のあり方についての基本的な考え方について」は、初心者の人で

も気軽に参加できるようにしたり、気軽に体験できるようにすることは大切なことだと思います。もちろん施設の問題もありますが、運営方法をいろいろ工夫することで改善できる点もたくさんあります。公の施設は民間施設と違いますので、手ぶらで来られるキャンプ施設にするというよりも、これまでのような形で自然体験ができる施設として整備していく方向で検討していきたいと考えます。

「(2) 表記の方法について」は、中間報告では、骨子(素案)ということで、文章をセンテンスや段落ごとの箇条書きスタイルにしてあり、読みやすいというご意見と、ブツブツ切れていて違和感があるという意見がありました。基本的に読みやすいように工夫したいと考えます。

「(3) 「青年」の扱いについて」は、何か、盲点だったような気がしますが、小委員会の中では、高校生、大学生、青年について、小学生のボランティアとしてだけでなく、事業の対象としてとらえていこうということで、加筆・修正してあります。

「(4) 少年の体験活動事業の総括について」は、「生き生き子ども地域活動促進事業」など、地区住民会議を地域の青少年の健全育成を進める「運動体」にしていこうということで、行われてきた取り組みについて、もう少し整理し、内容を煮詰めようということで、加筆・修正しました。

「(5) その他として「キャンプ場のネーミング」について」は、「みんなに愛される、親しみやすいキャンプ場にしていくためには、愛称をみんなで決めた方が良いのではないか」、という提言を、答申の中でしようということで、加筆させていただきました。

概要は、以上です。詳しくは、会議録をご覧くださいと思います。

蘇我議長 　ただ今、中間報告で出された意見に対する検討結果について、ご報告がありました。答申の方向性についてはよろしいでしょうか。皆さんからご意見・ご質問をお願いいたします。

意義なし の声

蘇我議長 　それでは、中間報告で出された意見については、小委員会の報告に沿って答申をまとめていきたいと思っております。

なお、前回と同じように、章ごとに皆さんからご意見・ご質問を伺いながら答申案の検討を進めていきたいと思っておりますが、全体での協議は今回が最後になります。細かい文章表現については、次回の小委員会で詰めたと思いますので、答申の方向性についてのご意見をお願いしたいと思います。最初に「はじめに」から「第1章」について、まず、地曳副委員長から説明をお願いします。

地曳副委員長 　それでは、修正した主な点について説明させていただきます。まず、「はじめに」についてですが、「木更津市教育振興基本計画」に関する記述があったのですが、正式な策定が遅れているとのことなので削除しました。また、見出しの頭に記号(§)を付けました。

「第1章」については、文部省が行った平成10年のアンケート調査についての記述があったのですが、新しいデータとあまり変わらないので、古いデータについては削除しました。また、文章の表記で、前は、短いセンテンスごとに文章の頭に中黒(・)を付けてありましたが、今回は○印とし、段落ごとにしてあります。

蘇我議長 　それでは「はじめに」「第1章」について、ご意見・ご質問をお願いいたします。

吉田委員 　文章の表記の関係ですが、今回の○印の方式の方がとても読みやすいと思ったのですが、接続詞が気になりましたので、独立した段落と接続する段落を区別した方が良いと思います。また、脚注が付けられているのですが、資料はつくのでしょうか。答申等については、資料も併せて掲載した方がわかりやすいと思います。内容的には問題ありません。

地曳副委員長 　巻末に係資料を載せる予定ですが、今回検討した資料が膨大なので、どれを付け

るかについては小委員会で検討したいと思います。

野中委員 掲載されている「答申」がとても古いのですが、よろしいのでしょうか。

内田委員 前回私も指摘させていただきましたが、これらの答申をもとに本市の青少年の体験活動のための施策が進められてきたということなので、あえて掲載してあるのだと思います。

事務局 小委員会でも議論になったところですが、平成 25 年の「中教審答申」では「社会を生き抜く力」という表現もされていますが、基本となっているのは、「生きる力をはぐくむ」という考え方なので、ちょっと古いのですが、掲載しようということになりました。なお、アンケート調査等の結果については、なるべく新しいものを掲載したいと考えています。

蘇我議長 他にご意見はよろしいでしょうか。それでは次に「第 2 章」について、地曳副委員長から説明をお願いします。

地曳副委員長 まず、P4 の第 1 項（現状と課題）、第 1 号（社会教育における自然体験活動）ですが、冒頭に 2 行を加筆し、具其他的な事例については、よりわかりやすいように主催者別等にまとめました。P5 中段の「こうした」からの部分は、「生き生き子ども地域活動促進事業」について加筆したところです。また、真里谷城址に関する脚注を新たに設け、巻末に資料を掲載する予定です。

P5 以降の第 2 項（今後の推進方策）については、P7 中段の「また」の段落に、少年だけでなく青年層も対象としていく必要があることを加筆しました。また、下段の「さらに」の段落に、身近な皆さんへのボランティア活動の働き掛けの大切さ等について加筆しました。

蘇我議長 「第 2 章」は答申の肝になる部分ですので、ご意見・ご質問をお願いいたします。

吉田委員 P5 中段の「こうした」からの部分は、「現状」なので、○印は不要だと思います。また、【その他の関連事業】中、公民館で開催されている事業は、【公民館における取り組み】に入れた方が良いと思います。P5 下段「少年自然家のキャンプ場」の段落は、「また」が続いていて意味が良くわからないので、修正をお願いします。

石井委員 小委員会でも、なるべく文章は短く、わかりやすいようにしたいと考えています。読みにくかったり、わかりにくい部分をご指摘いただければ、再度見直ししたいと思います。

吉田委員 わかりやすい文章にしようとしてご努力されているのはよくわかりますし、随分わかりすくなっていると思います。なお、P7 中段の「また」の段落は、青年に関する記述ですが、人材育成やボランティア活動が大切だという文章の中に入っているの、下段の「さらに」の段落の後に移したほうが自然ではないかと思えます。

蘇我議長 それでは、この点について何かご意見がありましたらお願いいたします。

平田委員 私は、ここの文章の流れが、乳幼児～小中学生～青年～成人と世代における方策を順に記述しているので、このままで良いと思います。

榛澤委員長 両方の考え方があると思うので、検討小委員会で再度検討したいと思います。

平田委員 答申案を読ませていただいて、とても読みやすく、こういう形で子どもたちが育ってくれば気持ちが良いし、お父さんお母さんも子育てが楽しくなると思うし、木更津の未来は明るいなと思いました。ただ、答申を受けて施策を実現をするのは大変だと思いますが、短時間では実現できないので、時間をかけて取り組んでいかないとはいけません。ただ、ちょっと気になったのは、P7 の 2 行目に「親子で一緒に」との記述がありますが、「親子」でなければいけないのでしょうか。また、下段の「さらに」の段落の 2 行目の「お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん」は、「隣のおじさん、おばさん、隣のおじいちゃん、おばあちゃん」でも良いのではないのでしょうか。昨今は色々な事情のご家庭があるので、「信頼関係のある周りの大人」とした方が良いのではないかと思います。どういう方がこの文章を読むのかわかりませんが、そうした

点にも少し配慮した方が良いのではないかと思います。

石井委員 今育てなければいけない子どもたちの親も、そういうふうに育てていないのですね。また、親自身もそういう経験をしていないので、親にも教えていかなければいけないので、「親子」という表現になった経緯があります。まあ大人と子どもという表現でも良いと思いますが、その辺は少し考えた方が良いかも知れませんね。

石井課長 小委員会での議論のポイントは、「乳幼児期の早い時期から」だったと思うんですね。乳幼児の段階から親子で日常的に自然に親しんでいくことで小学校や中学校での自然体験活動につながっていくのではないかと、ということでした。そういう意味で家庭が大切であり、親子という表現になったと理解していますし、今回の答申の大きなポイントだと思っています。

平田委員 おっしゃっていることは分かるのですが・・・。

蘇我議長 他の方はよろしいですか。それでは、次に、「第 3 章」から「おわりに」について、地曳副委員長から説明をお願いします。

地曳副委員長 「第 3 章」については、P8 上段の「原子力災害」の記述をわかりやすくしたほか、第 2 項「今後のあり方」の P9 上段にキャンプ場整備の基本的なコンセプトについて 2～3 行目を加筆しました。また、2 段目の《利用促進》として、「少年」以外でも利用できることをもっと周知するために、愛称やキャッチフレーズを付けたら良いのではないかと、という提案を盛り込みました。さらに、P10 中段の《新たな活用方策》が、こういう形でメニューが出されているのですが、これ以外にも皆さんからご意見を出していただきたいと思います。「おわりに」については、前回よりもボリュームアップしており、「郷土愛」を加筆しました。

蘇我議長 それではご意見・ご質問をお願いいたします。

内田委員 第 1 項「現状と課題」《施設の概要》の P8 上段に「今後の対応を早急に検討する必要があります」とありますが、第 2 項「今後のあり方」の中で具体的な中身が書かれており、最初に結論ありきのような感じがします。《施設の概要》の中では、「今後の対応を早急に検討する必要があります」との文言は必要ないのではないのでしょうか。

石井委員 キャンプ場の「現状」が充足していれば、ある程度現状を記述するだけで良いのですが、改善すべき点が多いのでそうした表現になってしまっているのだと思います。

蘇我議長 文章の構成としては、第 1 項が「現状と課題」で、第 2 項が「今後のあり方」になっているわけですが、「課題」の部分と「今後のあり方」の記述について、小委員会の方でもう少し整理をお願いしたいと思います。

野中委員 P8 の《利用状況》の最後の文章ですが、「ほとんどが再利用を希望しており」と、「施設の再利用も望む声があります」の接続が矛盾しているので、逆接にした方が良いと思います。

蘇我議長 それでは、この辺も表現のチェックをお願いします。

青木委員 P11 の「おわりに」の 5 行目「幼い子どもの頃から親子で」ですが、表現をまた変えた方が良くことになるのでしょうか。

石井委員 「親子」という表現について、どのようなことを想定して記述したらよいのか、皆さんのお考えをお聞きしたいと思います。また、この答申はどの様な方を対象にしているのか等によっても変わってくるので、小委員会でも検討するために確認できればと思います。例えば、「親子（大人と子ども）」というような表現ではどうでしょうか。

野中委員 ニュアンスの問題もあるので、この文章として適切かどうかは別にして、その子どもの責任者である「保護者」という表現もあります。

地曳副委員長 最初に議論になった P7 の部分で、「親子」の表現や関係性についてきちんと説明しておけば、この部分については良いという考え方もできると思うのですが、いかがでしょうか。平田委員にご指摘いただいた点については、小委員会として議論していなかったのですが、何らかの修正が必要だと思いましたが、すべての文章で考慮しなければいけな

いのでしょうか。

平田委員 具体的な案があって意見を言ったわけではないので、難しいですね。ここでは、乳幼児、小学生、中・高生、青年、成人というようにそれぞれの対象があげられていて、乳幼児については、「一番身近にいる大人」が一緒に自然の中に入って体験をすることが大切だ、ということをお願いというのはよくわかります。ただ、保育園や幼稚園などの活動や子育て支援事業を通じて、乳幼児も「親」以外の大人と自然体験活動をすることもできます。保育園については、就労している母親等に替わって保育をしているわけですから、「親」だけを規定する必要はないので、「周りの大人」というような表現でばかすこともできるかと思いますが・・・。

野中委員 私は、「親」はそのままが良いと思います。付け加えるなら「大人」というよりも「保育者」の方が適しているような気がします。

石井委員 一般的には「親子」で問題ないと思いますが、今回の答申の中で、そうしたことに配慮した表現が必要かどうかだと思います。必要であれば、今お話があったように、「周りの大人」とか「保育者」等を付け加えなければならないと思います。

吉田委員 「脚注」のような形で、「親子」に関する考え方や説明を載せることはできないのでしょうか。私は、自然の大切さを「親」が「子」に伝え、「親子」で自然体験をすることは大事だと思うので、「親子」という表現を是非入れてほしい、「保護者」や「地域の大人」と表現するより「親子」という言葉を残しておきたいなと思います。ただ、いろいろ配慮することも必要なので、注意書きをしたらどうかと思います。

平田委員 P7の1～2行目の「乳幼児を持つ親に伝えていくことが大切であり、」を「～大切です。」と一旦切って、「戸外で子ども達が“大人”と一緒に遊ぶ体験」に修正したらどうでしょうか。親に伝えていくことと、実際の行動は別だということで、一緒に体験をしてくれるのはおせっかいな近所のおばさんでも良いというように、分けて考えたらどうでしょうか。

石井委員 また、小委員会で検討したいと思いますが、やはり、「親子で一緒に遊ぶ体験の機会を広げていく」という文章は大事だと思うので、その文章はそのままにして、「周りの大人と一緒に体験することも大切です」というような表現を入れてはどうでしょうか。

蘇我議長 乳幼児期の体験や「親」の存在が大事だという意見は一致しているのですが、表現が難しいですね。時間もかなり経過してきましたが、それ以外の部分はどうですか。

地曳副委員長 P10《新たな活用方策》の具体的なメニューについて、ご意見をお願いします。

蘇我議長 ここに掲載されているものは、現在も行われているものも含まれているということですよね。他に、もっと新しい何かあれば、出してほしいということです。

武田委員 風揚げの風づくりなんか、どうですかね。

蘇我議長 どうもありがとうございます。それでは、改めて全体を通して何かあれば、ご意見をお願いします。

石井委員 P3の第1項第1号中、自然にふれあう機会の減少や外遊びの減少など「子どもたちの現状」について記述していますが、具体的に他にあれば教えてください。

蘇我議長 特にないようですので、その他に何かありますでしょうか。

内田委員 前回、「おわりに」をもう少しふくらませるということでしたが、もう少し強調しても良いような気がします。とてもきれいにまとめられているのですが、第3章にキャンプ場の今後のあり方について述べられていますので、その中で特に強調したい点などを盛り込んだ方が良いのではないかと思います。

蘇我議長 キャンプ場を使う人がいて、支える人がいます。ボランティアとか、支える人をこれから積極的に育てていこうと提言しているわけですから、それらを強調する内容を「おわりに」に盛り込んだらどうかと思います。

内田委員 キャンプ場を使う人の視点ではよくまとめられていると思いますが、もう少しキャンプ場を地域で支えていく活動についても強調した方が良いと思います。

地曳副委員長 最後に強調するという考え方もありますが、私のイメージだと、同じことを繰り返すと印象が薄れるという面もあるのではないかと思います。

蘇我議長 「おわりに」は、最後のまとめの部分ですから重要だと思います。もっと強調した方が良いという考えと、そうではないという考えもあると思いますが、皆さんいかがでしょうか・・・。

内田委員 答申として出すわけですから、私は、最後に「こうあってほしい」みたいな主張がもっと入った方が良いと思います。

石村委員 そう言われてしまうとそういう感じもしますが、歴史的な環境をみんなで守っていく必要があるし、守ってだけでなく、受け入れる側の人を育てていくということも含めて書いたらいいかな、という感じがします。

吉田委員 前回より内容がふくらませてあって、これで良いと思います。ただ、キャンプ場の利用促進が図られ、盛り上がってくれば、人も育ってくるのではないかと思いますので、そうした点は入れた方が良くかなと、思います。

李 委員 キャンプ場を守っていくのが大切なので、入れていった方がよいと思います。

武田委員 「おわりに」は、最後のまとめなので、ここを読んだら答申内容がある程度わかるようなものがここに盛り込まれればいいなあと思います。

平田委員 小委員会の皆さんの（案）に対して意見を言うことはできますが、作るのは大変ですよ。本当に難しいと思います。

野中委員 下から 5 行目に「特に、集団的な自然体験活動の場として、少年自然の家キャンプ場に期待されるものには大きいものがあります」とありますが、どのように期待されているのか、自然体験を支えるボランティア活動の充実や地域のかかわりの大切さ、歴史的な環境の保全等、具体的な内容をふくらませたら良いのではないかと思います。

榛澤委員長 さまざまなご意見があると思いますが、改めて小委員会で検討したいと思いますのでよろしくをお願いします。

蘇我議長 それでは、小委員会に意見が投げられましたので、最終的に、小委員会の方で検討をよろしくをお願いします。答申についての議論は、以上で終了したいと思います。

続きまして、その他の報告事項に入ります。「木更津市者社会教育委員に関する条例の一部改正について」、事務局の説明をお願いします。

条例の一部改正について説明—事務局

蘇我議長 他に報告事項はありますでしょうか。

生涯学習審議会委員の推薦について説明—事務局

蘇我議長 ただ今、事務局から説明がありました。任期が終了する生涯学習審議会の委員については、任期途中でありますので、引き続き社会教育委員会から宮崎 清委員を推薦するということがよろしいでしょうか。

意義なし の声

蘇我議長 それでは、生涯学習審議会の委員には、宮崎 清委員を推薦させていただきます。それ以外に何かございませんか。無いようですので、以上で、会議を終了させていただきます。皆様のご協力が無事本日の会議を終了することができました。ありがとうございました。

事務局 長時間にわたり、貴重なご意見をいただきありがとうございました。答申作成まであと一息となりましたので、よろしくをお願いします。それでは平成 25 年度木更津市社会教育委員会議第 4 回定例会を終了いたします。どうもありがとうございました。